



尾倉中学校だより

チーム尾倉

～ 自主 創造 協力 ～

NO. 8

令和6年11月1日(金)

北九州市立尾倉中学校

〒 805-0059

北九州市八幡東区

尾倉三丁目 10 番 1 号

TEL (093) 661-6516

《文責》

尾倉中学校 校長 高宮 滋

リーディングDXスクール事業 公開授業〔10/23〕

盛会に終了。1年2組、2年2組、3年1組の皆さん、ご苦労様でした！

10月23日（水）、文部科学省指定の上記公開授業を開催しました。当日は市内外から百数十名の来校者（教員）が訪れ、授業中は教室に入りきれずに廊下・ベランダから参観する姿が見られました。参加された方々は、生徒のそばまで近づき、タブレットを食い入るように見たり、生徒が話し合う内容を聞き逃すまいと懸命に聞き耳を立て、うなずいている姿が印象的でした。

「1年2組 国語科『聞き上手になろう』」では、相手から話を引き出すための「聴き方」の工夫や「質問の種類」を学び、それをタブレットで共有しながら対話の練習をしました。タブレットを活用して瞬時に互いのメモ内容を参照することで学びをより深めることができました。

「2年2組 社会科〔地理（日本）中部地方〕」では、「中部地方に新たにリゾートホテルを建設するならどの地域が適しているか考えよう」というめあてで授業が行われました。当地（東海・中央高地・北陸）の地理的事象（地形・気候・産物・地域等）を参考に各地域の良さや課題を調べ、友だちと協議しながらタブレットでプレゼンテーションを作成していきました。

「3年1組 保健体育科『バスケットボール』」では、「得点するために空間を使ったり、作り出したる工夫」を主眼に取り組みました。3対3の攻防をタブレットで動画に撮り、それをもとにタブレットの画面に動きを描き入れながらグループで作戦を共有し、次のプレイでその動きを実践していこうという取組でした。

今回、参加された先生方は、これらICT機器を活用した授業実践のノウハウを所属校に持ち帰り、職員研修等を通じて多くの先生方に広めていくことと思います。



授業参観者からの感想・コメント

国語〔1年2組〕	社会〔2年2組〕	保健体育〔3年1組〕
○生徒全員がそれぞれ自己の学びに向かい、常に思考が働くような仕掛けがなされていた。自分たちに必要な学びのスタイル（机の移動など）を教師の指示がなくても自然と行えており、日頃からの端末活用の効果を感じた。 ○Googleコメントで前時の学びの振り返りと共有が同時になされていたことや、スプレッドシートで作成したチェックシート等で、どの工夫を対話に活用したかを意識しながら進めるなど、様々な機能を目的に照らして採り入れていた。 ○まとめ記入シートは、他者の入力をリアルタイムで見られるため、自身との比較・対照を瞬時にできる点に感銘を受けた。 ○初めてのことでただ、大変勉強になりました。画期的でした。	○個別最適で、生徒が知りたい情報や見たい情報を自ら能動的に採集している点がよかった。スプレッドシートで生徒個々の進捗状況を確認できるので、個別に状況に応じた的確な助言が与えられていた。 ○他のグループの作業の様子が見えること、調べた資料を共有していること、自分と同じ視点や地域を調べている人と情報交換できることなど、GIGA端末の利点が凝縮されていた。自校に持ち帰り、紹介したいと思う。 ○今なすべきことを全員の生徒が理解し、取り組んでいた。普段からの指導が行き届いているのだと感じた。 ○「個別最適な学び」とはこのような形かなと感じた。私もこのような実践を追求していきたいので、とても参考になった。	○タブレットで動きを撮影し、動画を各グループで見ながら振り返りが行われていた。また、それをもとに作戦会議が行われ、次のゲームで試すことができていた。トライ＆エラーで学びが深まっていた。 ○動画を見ながらチーム内で教え合う姿は、撮影できるからこそその時間だと思いました。動画をもとにバスケット部と思われる生徒が苦手そうな生徒にアドバイスしていて、「なるほど！」と納得していました。 ○タブレットを活用し、生徒自らが考える場面が多く、教師の説明を最小限にとどめていた。タブレットとテレビ画面を使って生徒の考えをすぐに可視化できていた。 ○まとめやポイントのテレビ画面での共有など採り入れてみようと思った。

令和の日本型学校教育に至るまでの教育の歴史

「個別最適な学び」「協働的な学び」と言われる前の「一斉授業」はいつから



さかのぼること数百年、ヨーロッパの貴族などは家庭教師によって子弟の教育を行っていました。一方、庶民の職人などの教育は徒弟制度（経験豊富な職人から職業技能を習得していく制度）による個別指導だったようです。

日本においては江戸時代、武士の教育機関の藩校や庶民の教育機関である寺子屋において個別指導が行われていたようです。同一年齢だから同じ内容ということではなく、個々の能力や理解度に応じて指導がなされていたようです。

藩校では、試験が行われることもあったようですが、みんな同じ内容というわけではなく、個々に合わせて試験も異なっていたようです。

18世紀後半、イギリスで産業革命が始まり、技術革新するとともに工業生産力を増やそう。そのためには工場で効率よく働かせるために「読み・書き・計算」のできる労働者階級の子を迅速・大量に育てる必要に迫られました。そこで考え出されたのが、マニュアル化された教授法を優秀な生徒に教え込み、その生徒（スモールティーチャー）が他の生徒を教えるというシステムが発展していったそうです。そして、あらかじめ年齢別に決まった内容を一斉に教える「学級」という枠組みができたようです。



日本では明治維新以降に「学制（大学校・中学校・小学校設置）」が導入されました。当時は、欧米の国力とは大きな差があり、早急に欧米列強に対抗して国力の差を埋めるために「文明開化」「富国強兵」をスローガンとして教育に力を入れました。



時代の変化に伴い、急激な工業化が必要となりました。工業を支える工員を育てるには一定の知識を備えた人材を大量に育成することが必要です。そこで、一クラスに多くの子どもを入れ、一斉授業によって一定の知識を習得させるようにカリキュラムが構成されました。

第二次世界大戦後は、工業国として加工貿易で発展していくことを目指しました。優秀な人材を一斉に育て、産業界に送り出していく方式です。これが大成功して、日本は世界有数の工業国家となりました。

この教育は、よその国や人が既に出している「答え」をいかに早く覚え、再現することを重視します。コストを下げ、スピードを速くして、誰よりも早く、安い製品を作って売るというビジネスモデルは、この教育をもとにして生まれました。アメリカのように「個」を重視する教育を行っていたら、これほど効率よく「工業国家日本」を築くことはできなかったといわれています。

それから大きく時代が変わり、上記の「※Society 3.0(工業化社会)」から「Society 5.0(超スマート社会)」の時代を迎えようとしています。この予測困難な時代(VUCA)は、既にある「答え」を丸暗記する教育では乗り越えていけないといわれています。世の中にある「正解のない問い」に対して「最適解」を導き出していくこと、そのためには、先を見通して戦略的に手を打っていく力（先見性と戦略性）や、「あらゆる変化に的確に対応していく力（多様性と柔軟性）」が求められます。

令和の日本型学校教育は、「個別最適な学び」「協働的な学び」の実現を掲げています。私たち尾倉中教職員は、「一時間一時間の授業の中に、教育のすべてがある！」という覚悟をもって日々の教育実践に取り組んでまいります。



※「Society 1.0(狩猟社会)」、「Society 2.0(農耕社会)」、「Society 3.0(工業社会)」、「Society 4.0(情報社会)」「Society 5.0(超スマート社会)」

1日(金)～8日(金)学校開放週間

- 2日(土) 文化活動発表会 生徒会新旧交代式
- 6日(水) 3年生教育相談 ひまわり教室
- 7日(木) 1年生連合音楽会
- 8日(金) ひまわり教室
- 11日(月)～13日(水) 期末考査
- 15日(金) ひまわり教室

11月の行事予定

- 20日(水) ノー一部活デイひまわり教室
- 22日(金) 避難訓練 ひまわり教室
- 25日(月) 2年生 修学旅行事前指導
- 26日(火)～28日(木) 2年生修学旅行
- 27日(水) ひまわり教室
- 29日(金) 修学旅行疲労回復日 ひまわり教室

